

平成27年12月25日(金)

同時資料提供先：合同庁舎記者クラブ
中国地方建設記者クラブ
広島県庁県政記者クラブ
広島市市政記者クラブ

広島高速道路公社

保全課長 河村 洋治

技術管理課長 村重 弘明

TEL：082-508-6822

広島高速3号線高架橋における落下物事故について

平成27年8月27日に判明した、広島高速3号線に係るコンクリート片落下事故について、判明直後に実施した緊急点検等の結果(9月11日公表済)、範囲を拡大して実施した追加点検の結果及び原因等についてお知らせします。

1 点検結果について

緊急点検範囲：広島高速3号線Ⅰ期(仁保JCT～宇品IC)

追加点検範囲：広島高速2号線，広島高速3号線Ⅱ期・Ⅲ期(宇品IC～観音IC)，
広島高速4号線

- ・緊急点検では、本事故箇所(橋脚1基)の他、仮設アンカー周辺の本体コンクリートが剥離するような、本事故に類似した損傷がある橋脚1基が確認されました(9月11日公表済)。その後、範囲を拡大して実施した追加点検では、同様の損傷は確認されませんでした。

(詳細は下表のとおり)

点検対象路線	延長	対象橋脚 (コンクリート製)	仮設アンカー跡 がある橋脚	本体コンクリートが 損傷した橋脚	状況等
高速2号線	約5.9km	75	52	0	—
高速3号線Ⅰ期※ (仁保JCT～宇品IC)	約2.6km	59※	45	2※	事故箇所1基 類似箇所1基 (剥落済)
高速3号線Ⅱ・Ⅲ期 (宇品IC～観音IC)	約5.1km	114	89	0	—
高速4号線	約0.5km	6	5	0	—
計	約14.1km	254	191	2	

※9月11日公表済のデータ

- ・本事故に類似した損傷ではないものの、仮設アンカー跡に施工したモルタル表面の浮き、劣化の恐れがある箇所が、公表済みのものを含め14箇所(11基)確認されました。これらの箇所については、点検時に、緊急措置として表面のモルタルを撤去しました。

2 原因について

本事象の原因については、日本橋梁建設協会の見解を踏まえ、以下のとおり推定しました。

補修モルタルの経年劣化で雨水が浸透したことにより、仮設アンカーが発錆・膨張し、これが外力となって周辺のコンクリートが剥離したものと考えられる。

また、剥離したコンクリート片が地上に落下したのは、台風通過時の強風によるものと考ええる。

3 今後の対応について

(1) 既設構造物への対策

これまでの点検において、モルタル表面の浮き、劣化の恐れがある箇所は、これらの撤去を完了しており、緊急に対応すべき危険箇所は排除済ですが、日本橋梁建設協会の見解・提言を参考に以下のとおり実施していきます。

雨水の浸透防止を目的としたコンクリート表面保護工（断面修復含む。）及びアンカー露出部の防錆処理

- ・本体コンクリートが剥離した箇所のある 2 基の橋脚（事故・類似箇所のある橋脚）

[年内実施]

- ・浮き、劣化の恐れがある表面モルタルを撤去した箇所のある 11 基の橋脚

[年度内実施]

(2) 橋脚天端仮設アンカー箇所の点検の厳格化

点検方法

近接目視・触診・打音(劣化状況を確認する。)

点検頻度

2（回/年）の頻度で実施している検査路点検時において、当該箇所の点検に関する項目を追加し、実施していくこととする。

(3) 新設工事への対策

新設工事における仮設アンカーへの対応については以下の方針を定め、公社内の関係部署へ通知済（H27. 9.24 付）であり、施工現場での徹底を図っています。

今後においても、引き続き適切な品質・安全確保に努めていきます。

- ・仮設アンカーについては、使用目的を達成した後に撤去すること。
- ・完全に撤去できない場合は、鉄筋の最小かぶり厚より浅い位置にアンカー部材を残存させないこととし、残存させる部分については防錆処置を実施すること。

点検範囲



浮き、劣化の恐れがあるとして撤去した表面モルタル箇所



コンクリート表面保護工のイメージ

